審査にあたりて

第29回市美展「書」の部は、昨年より公募10名の出品増をみて、関係者一同ほっと安堵の胸を撫で下ろした。

審査にあたっては、審査員一同、理に走り情に溺れることなく、己をきびしく律し、作品の内容を充分見極めて、審査の任にあたることを申し合わせた。

市美展のことゆえに、常日頃から出品者の力量を知り尽している審査員の面々であるが故に、審査は慎重ならざるを得ず、論議をつくし、時間ギリギリまで難航した。

さて、作品の内容は例年と変わりなく、なかには書体を変えてかえって失敗した例も見受けられた。ここぞと思う時は、もっとも得意とするもので、作品を創ることが肝要と思われる。

すべての物の有り余る豊かな現代、しかし、人びとの心は冷えきって貧しく寒い。心の拠りどころとして「書」がある私達は、本当に幸せであるとつくづく思えてくる。

更に「古典」と対峙し、自己の無駄を削ぎ落とす、そこから輝きがみえてくる。それが本物の自分であろう。古典は偉大であり、生半可な態度ではそっぽむいてはね返してしまう。きびしく迫れば、そろそろと少しずつ本質を教えてくれる。常に「志」をもって歩を進めて欲しい。

テレビの宣伝ではないが、「20世紀に置いてゆくもの、21世紀に持ってゆくもの。」書を学ぶ私達は、なにを捨て、なにを懐に抱いてゆけばいいのでしょうか？

審査員長　村　上　皓　南

※生涯現役賞
　80歳以上の作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。
※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第29回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	七言対句	馬目香楊	小名浜大原
議会議長賞	高啓詩	河邊素月	内郷高坂町
教育委員会教育長賞	曹植詩	金賀香楓	小名浜岡小名
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
文化団体連絡協議会会長賞	里の春	細井清子	小名浜玉川町
福島県報徳社賞	五言二句	鈴木和多利	平
〃	李頎詩	小林千恵	四倉町上仁井田
美術館友の会賞	臨甘粛木簡	鈴木松香	常磐上湯長谷町
株式会社すまい賞	守以静	門馬春錦	平
平南開発株式会社賞	潘岳詩	大平峰生	佐糠町
有限会社トーカイ賞	孫逖詩	齋藤王寧	中之作
株式会社箱崎美術広告社賞	徐瑳詩	鈴木花泉	鹿島町米田
魁文堂賞	于謙詩	高野晶	小島町
〃	易林語節臨	小野静流	田人町旅人
有限会社平電子印刷所賞	樊阜詩	芳賀君江	平馬目
遠藤一心堂賞	張九齢詩	木田湛周	好間町中好間
〃	雲端逈	大河原一醉	内郷綴町
関根一心堂賞	陶淵明詩	関晃柳	郷ケ丘
マルナカ表具店賞	七言二句	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
勝山堂賞	明詩四首	阿部景風	好間町今新田
〃	杜牧詩	伊藤抱琴	平下神谷
大宝通商株式会社賞	臨造像記	新妻祥雲	平中平窪
アメミヤ東北株式会社賞	王涯詩	吉村翠苑	平
ホープ商事株式会社賞	呉昌碩詩	新妻心葉	郷ケ丘
いわきビル設備管理センター株式会社賞	徐璣詩	新妻弘子	常磐湯本町
〃	臨姚伯多造像記	永山閑遠	渡辺町田部
常光サービス株式会社賞	国分青厓詩	鯨岡恒翠	久之浜町
株式会社日本オイラービルサービス賞	善處窮	佐久間弘之	常磐下湯長谷町
いわき書道協会賞	明々徳	松本大涛	双葉郡楢葉町大字前原
〃	頼春風詩	上遠野大苑	常磐藤原町
〃	七言二句	佐々木萌月	平泉崎
〃	方豪詩	菜花琴雪	四倉町
〃	竹内勝太郎の詩	杉山溪風	植田町
〃	無欲	大山嶽鳳	泉ケ丘
生涯現役賞	勿来関の歌	助川空翠	植田町

第30回記念展にあたって

21世紀初頭の展覧、それも30回の節目を迎え記念すべき催しで、それだけに大きな意義と価値のある本展であります。

書の部は途中からの参加で、今年で26回目にあたりますが、よくここまで持続できたと、われながら感心させられます。

と申しますに、市教育委員会、市文連協、市立美術館や後援者など、多くの機関のご支援とご協力があったればこそと思います。

展覧会が長期にわたりますと、出品者の馴れから反応が次第に弱くなり、マンネリ化して会の新鮮さとか充実感、いわゆる本質の失われるのが落ちです。そうした倦怠や弊害もなく、本展まで到達したのは、各人の熱意ある制作の賜物と全作品をみて痛感するのです。要は一人一人の積極的で前向きな姿勢の現れではなかったでしょうか。この心情がお互いにあれば、将来の動向に明るさの増すことが十分予測できます。

話は全く別になりますが、わが師の西川寧先生は、口癖のように「書の職人であれ」と、われわれを叱咤激励されていました。「職人」という言葉は昔風の気質を彷彿とさせ、現在ではあまり重要視されない傾向があるかも知れませんが、本当のところは芸の従事する根本です。それが21世紀に、見直されるべき課題なのです。

銘々が書いて書いて書きまくる習慣、これを第一の目標として今後精進し、市美展の内容の向上と繁栄に努めてゆきたいと念願するばかりであります。

審査員長　佐々木　折　柴

※新　人　賞
三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第30回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	臨甘粛木簡	木田湛周	好間町中好間
いわき市議会議長賞	王維詩	齊藤王寧	中之作
いわき市教育委員会教育長賞	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	何遜詩	服部桂山	好間町中好間
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	七言二句	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
福島県報徳社賞	高適詩	小林千恵	四倉町上仁井田
〃	五言律詩	鈴木花泉	鹿島町米田
美術館友の会賞	春を待つ	細井清子	小名浜玉川町
有限会社トーカイ賞	唐詩二首	河邊素月	内郷高坂町
株式会社箱崎美術広告社賞	臨姚伯多造像記	永山閑遠	渡辺町田部
魁文堂賞	呉昌碩詩	渡辺千祐	四倉町上仁井田
〃	鮑照詩	髙野晶	小島町
有限会社平電子印刷所賞	瑞氣迴	佐久間登崕	常磐下湯長谷町
遠藤一心堂賞	李商隱詩	金賀草人	小名浜岡小名
〃	易林語	小野静流	田人町旅人
関根一心堂賞	杜甫詩	吉村翠苑	平
マルナカ表具店賞	傅山詩	金成文子	江名
勝山堂賞	潘岳詩	大平峰生	佐糠町
〃	張喬詩	及川峰紘	内郷内町
大宝通商株式会社賞	臨銀雀山漢墓竹簡	臺椒花	遠野町滝
アメミヤ東北株式会社賞	臨甘粛木簡	鈴木松香	常磐上湯長谷町
ホープ商事株式会社賞	金声玉振	和田純孝	平片寄
いわきビル設備管理センター株式会社賞	呉昌碩詩	新妻心葉	郷ケ丘
〃	梅が香	三浦華苑	小名浜玉川町
常光サービス株式会社賞	五言二句	鈴木我崚	平
株式会社日本オイラービルサービス賞	風魔漢	大河原一醉	内郷綴町
いわき書道協会賞	杜茶村詩	新妻淡遠	常磐湯本町
〃	臨居延木簡	殿塚聖安	東田町
〃	翁方綱詩	菜花琴雪	四倉町
〃	沈佺期詩	猪野直之	平
〃	宋詩二首	阿部景風	好間町今新田
〃	臨趙之謙	関根溪石	久之浜町久之浜
〃	余懐詩	鈴木彩雪	常磐岩ケ岡町
〃	司空曙詩	芳賀妍影	平馬目
〃	蘭亭詩	石川絹晃	内郷白水町
新人賞	大事	斎藤桂一	郷ケ丘
〃	抜本塞源	渡辺美紀	洋向台

審　査　所　感

今年の搬入総数は219点で昨年より3点増でした。審査は、4名の審査員により、公正にしかも慎重かつ厳正に終始し、公募193点の中より29点の入賞を選びました。

尚、作品全般からみると、構成に工夫がみられ、すぐれた作品が多く、日頃の研鑽努力のあとが感じられ、たいへん心強く思いました。

さて、科学技術の進歩により、人々は今日まで「より多く、より速く、より便利に」と生活の簡便さを追求してまいりました。文字においても情報通信技術の普及とともに、自由にそして瞬時に文字や画像が交換できるようになり、「文字」は、指で打ち出す時代となってきました。

私たち書に携わる者は、不便で非日常的な筆、墨、紙を用いて制作する訳ですので、今後「書」には、「より内容の高い、より精神性の豊かな表現」が求められると思います。したがって、私たちは、古典の名筆に用筆法、墨色、線質、造形美、ニジミ、カスレの表現等を学び、筆、墨、紙だからこそできる表現をめざさなければなりません。

ある歴史学者は、「歴史は過去へ遡りつつ未来が切り拓かれる」と言っております。古典の文化を解し学びながら、現代性を持つ表現をすることが、真の精神の豊かさを求める「書」にとって重要なのではないでしょうか。

審査員長　田　久　竒　峰

※新　人　賞
三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第31回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	楽歳	木田湛周	好間町中好間
いわき市議会議長賞	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
いわき市教育委員会教育長賞	勿来の関のうた	細井清子	小名浜玉川町
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	于良史詩	髙野晶	小島町
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	韋応物詩	鈴木花泉	鹿島町米田
福島県報徳社賞	蝶一雙	大河原一酔	内郷綴町
〃	七言二句	菜花琴雪	四倉町
美術館友の会賞	蹙沓波浪驚	永山閑遠	渡辺町田部
有限会社トーカイ賞	杜甫詩	金賀草人	小名浜岡小名
株式会社箱崎美術広告社賞	春霞	髙萩龍翠	小名浜住吉
魁文堂賞	銀雀山漢墓竹簡節臨	臺椒花	遠野町滝
〃	呉昌碩詩	渡邊紫苑	郷ケ丘
有限会社平電子印刷所賞	李剛詩	伊藤松茄	平赤井
遠藤一心堂賞	臨木簡	鈴木松香	常磐上湯長谷町
〃	施閏章詩	吉村翠苑	平
関根一心堂賞	潘岳詩	大平峰生	佐糠町
マルナカ表具店賞	臨木簡	殿塚聖安	東田町
勝山堂賞	芭蕉の句を	坂本一道	平上荒川
〃	送李回	小林千恵	四倉町上仁井田
大宝通商株式会社賞	傅山詩	岡部香葉	渡辺町泉田
アメミヤ東北株式会社賞	国分青厓詩	工藤往古	四倉町
ホープ商事株式会社賞	臨造像記	新妻祥雲	平中平窪
いわきビル設備管理センター株式会社賞	三木露風の詩	永井希依	錦町
常光サービス株式会社賞	沈佺期詩二首	河邊素月	内郷高坂町
株式会社日本オイラービルサービス賞	王維詩	服部桂山	好間町中好間
いわき書道協会賞	六言二句	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
〃	七言律詩	遊佐義雄	明治団地
〃	白氏草堂記節臨	一条正治	内郷高坂町
新人賞	華山廟碑節臨	小野静流	田人町旅人

審査にあたりて

第32回いわき市美展「書の部」は、現代社会の動向に左右されたせいでもないと思われるが、昨年に比べ、9点の出品減となった。

作品の内容は、全体的に盛り上がりが不足し、いささか熱気に乏しい憾みがあった。その中にあって、上位入賞四者の作品は、実力伯仲し、審査員の頭を悩ませた。久し振りに、会場の緊張感に昂揚し、心地よい臨場感を味わった。

董其昌の『畫禪室隨筆』の中に「晋人は韻を尊び、唐人は法を尊ぶ」とある。書は形の模倣ではなく「気満」いわゆる気の充実で、それは線の充実であるという。古来からすぐれた書は、線の充実に命をけずって邁進した賜ものであった。

また、唐の孫過庭の『書譜』に「人書倶に老ゆ」とある。いかに豊かな、恵まれた才能の持ち主でも、10年、20年の勉学ではまだまだ足りぬ。中林梧竹翁は、自らの書業を省みて、80歳の境涯に熟して、本当の書ができたと述懐している。

世の中に完全な人間などいない。その人はその人なりに、みな素晴らしさがあり、駄目なところもある。長所と欠点は紙一重の差であって、われわれ凡人にだって沢山よいところがある。梧竹翁が80歳で書に開眼したというならば、まだ先はある。臆することなく、今のありのままの本当の自分の姿を、精一杯紙にぶっつけてみようではないか。

審査員長　村　上　皓　南

第32回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	古詩二首	鈴木我崚	平
いわき市議会議長賞	潘岳詩	大平峰生	佐糠町
いわき市教育委員会教育長賞	臨姚伯多造像記	永山閑遠	渡辺町田部
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	山家集のうた	細井清子	小名浜玉川町
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	王維詩	服部桂山	好間町中好間
福島県報徳社賞	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
〃	梅江詩	鈴木花泉	鹿島町米田
美術館友の会賞	王時敏詩	谷津淑夫	内郷宮町
有限会社トーカイ賞	唐詩二首	河辺素月	内郷高坂町
株式会社箱崎美術広告社賞	張文潛詩	小野静流	田人町旅人
魁文堂賞	西行のうた	三浦華苑	小名浜玉川町
〃	八言句	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
有限会社平電子印刷所賞	王維詩	小林千恵	四倉町上仁井田
遠藤一心堂賞	臨造像記	新妻祥雲	平中平窪
〃	臨居延漢簡	殿塚聖安	東田町
関根一心堂賞	呉昌碩詩	金成晁泉	平豊間
マルナカ表具店賞	聞人蒨詩	新妻淡遠	常磐湯本町
勝山堂賞	真山民詩	高野晶	小島町
〃	接瑞雲	大河原一酔	内郷綴町
大宝通商株式会社賞	李献能詩	吉村翠苑	平
株式会社アメミヤ東北賞	三木露風の詩	杉山溪風	植田町
ホープ商事株式会社賞	唐詩二首	阿部景風	好間町今新田
いわき書道協会賞	王恭詩	石川絹晃	内郷白水町
新人賞	臨乙瑛碑	上遠野智深	泉町滝尻

※新　人　賞
30歳以下の若手作家を対象とし、受賞は3回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

審査雑感

本年度の総出品数が218点、昨年より8点の増です。最近の展覧会の状況を知るに、出品数が減少の一途にある傾向は否めないですが、今年増加をみたのは嬉しいです。

◇　◇　◇　◇　◇

書は一朝一夕に上達するわけにいかず、厄介で難しいものです。単なる感性だけでは無理で、長年にわたる鍛練が要求されます。ですから、苦しい錬成の中で、忍耐力が強くなければなりません。途中で挫折してしまっては、元も子もなくなります。要は努力の積み重ねに帰します。

◇　◇　◇　◇　◇

審査の中で、作品の巧拙は別として、何か訴える表現があるかどうかを捜し出します。例えば、素朴さ、素直さ、温和さ、清澄さ、静穏さ、強靭さなどなどです。そこに書者の心情が汲みとれたら、興趣を覚えるのですが、残念ながら注目に価する作の少なかったのは事実です。

◇　◇　◇　◇　◇

私は書体を問わず、古典として典型を順守します。しかしこれにとらわれ、終始してしまっては不甲斐ないです。この典型から開放し、そこから自由なものを求めていく、典型に対する反抗が重視されます。そうした所作は確かに冒険ですが、あえて実行してみることです。そこに書者の人間らしさが表出され、特徴である個性が自ずと生まれてきます。心情や個性を通し、芸術としての書を探求していくべきでしょう。

◇　◇　◇　◇　◇

瑣事かも知れませんが、今回参加者の出品票を拝見しました。はっきり申して、毛筆よりペン字の方が拙劣です。何のために書を学習しているのか、疑問を抱きます。熟慮検討すべきだとの課題を、今回あえて提起しておきます。

審査員長　佐々木　折　柴

第33回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	唐詩二首	鈴木我峻	平
いわき市議会議長賞	みちのくのうた	細井清子	小名浜玉川町
いわき市教育委員会教育長賞	宋詞	殿塚聖安	東田町
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	古詩	髙野晶	小島町
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	徐暉詩	鈴木花泉	鹿島町米田
福島県報徳社賞	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
〃	煙霞夢	大河原一酔	内郷綴町
美術館友の会賞	臨柳公権	岡部香葉	渡辺町泉田
有限会社トーカイ賞	千字文	金賀草人	小名浜岡小名
魁文堂賞	白居易詩	谷津淑夫	内郷宮町
〃	李延是詩	服部桂山	好間町中好間
有限会社平電子印刷所賞	古今集のうたを	坂本一道	平上荒川
遠藤一心堂賞	銭起詩	新妻淡遠	常磐湯本町
〃	李延興詩	石川絹晃	内郷白水町
関根一心堂賞	六言句	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
マルナカ表具店賞	三木露風の詩	杉山溪風	植田町
勝山堂賞	唐詩二首	物江虹唐	桜ヶ丘
〃	臨柳公権	渡部英華	好間町川中子
大宝通商株式会社賞	王維詩	河邊素月	内郷高坂町
株式会社アメミヤ東北賞	陶淵明詩	馬上里風	常磐関船町
ホープ商事株式会社賞	臨銀雀山漢墓竹簡	臺椒花	遠野町滝
いわき書道協会賞	黄庭堅詩	小口天信	小名浜
〃	唐詩二首	吉村翠苑	平
〃	潘岳詩	大平峰生	佐糠町
〃	誇者不行	和田純孝	平上片寄
新人賞	墨礦人	上遠野裕深	泉町滝尻

※新　人　賞
30歳以下の若手作家を対象とし、受賞は3回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

審査にあたって

21世紀に足を踏み入れて数年がたち、改めて前の世紀百年を振り返ってみると、かつて見てきた風景がかなり違って見えてくる。

書道界に話を限ってみても、明治期後半には、西洋の文明、文化が怒濤の如く流入し、書道界もその在り方をめぐり根本的な問いが発せられた。

戦前は、過剰な自信と不安が入り混じりながらも、全体的には停滞していった。戦後の高度経済成長期には、味わい深さというよりも、力強く勢いのある作品が主流であった。長年書道に親しんできて、芸術には、本人が意図しているか否かにかかわらず、その時代時代の人々の生きざまが反映されていると改めて実感する。

さて、今年の出品数は215点で、昨年に比べ3点減である。

審査に際しては、じっくり時間をかけ慎重かつ厳正を尽くした。

入賞者にはお祝い申し上げたい。しかしこれで慢心することのないよう戒めもしたい。

また、今回入賞しなかった方々にも、これで気落ちすることのないよう促したい。その差はごく僅かであった。

今後は互いにいっそう切磋琢磨し合いながら、新しい21世紀の書道表現と、いわきの芸術・文化水準の向上に努めていきたいと思う。

審査員長　田　久　竒　峰

第34回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	古詩	谷津淑夫	内郷宮町
いわき市議会議長賞	臨居延漢簡	殿塚聖安	東田町
いわき市教育委員会教育長賞	古今和歌集・仮名序	細井清子	小名浜玉川町
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	明詩三首	鈴木花泉	鹿島町
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	三言句	大河原一醉	内郷綴町
福島県報徳社賞	蘇軾詩	金賀草人	小名浜岡小名
〃	臨居延漢簡	伊藤松茄	平赤井
美術館友の会賞	新古今集のうた	坂本一道	平上荒川
有限会社トーカイ賞	元稹詩	髙野晶	小島町
魁文堂賞	六言句	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
〃	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
有限会社平電子印刷所賞	鹿鳴	台椒花	遠野町滝
遠藤一心堂賞	潘岳詩	大平峰生	佐糠町
〃	杜甫詩	吉村翠苑	平
関根一心堂賞	孟浩然詩	新妻淡遠	常磐湯本町
丸中表具店賞	王湾詩	佐藤心耕	江名
勝山堂賞	張籍詩	木川秋舲	内郷御厩町
大宝通商株式会社賞	六言二句	阿部粧月	常磐湯本町
株式会社アメミヤ東北賞	楊万里詩	伊藤抱琴	平下神谷
ホープ商事株式会社賞	杜甫詩	望月元水	植田町
㈲磐植賞	韓愈詩	小林千恵	四倉町上仁井田
いわき書道協会賞	岑参詩	藤由紫光	中央台
〃	呉昌碩詩	渡辺千祐	四倉町上仁井田
〃	于謙詩	佐藤蕗風	四倉町上仁井田
新人賞	劉延芝詩	木村萌華	小名浜下神白
〃	良儔	小松慶子	泉町

※新　人　賞
30歳以下の若手作家を対象とし、受賞は3回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

審　査　所　感

今回第35回展は、出品総数209点、前年度より6点の減をみた。

現今、高年齢社会の世相から、年々出品作品が減ってくるものと思われる。そのせいではないが、出品作品内容も、もう一つ盛り上がるものがなかった。

上位入賞者10名ほどの中に、若い人びとの名前を見出し、これから伸びる芽を見出し、安堵した次第である。

総じて、作品内容は、実力があるのに、趣向に走り、自分の力を出しきれていない作品が見受けられ残念であった。もっとじっくりと自分をみつめ、普段の自分を掘り下げた作品が、いつのまにか上位に置かれていた。

展覧会だからと、特別衣装を変えなくても、普段着の作品の方が安定があり、見る人の心をうつものがあると、審査員一同のいつわらざる心情であった。

もう一つ、連綿のリズムを追うあまり、基本形体を崩し、俗体化し、間違った字になってしまう。草体をしっかり身につければ、素晴らしい作となる人びとがいる。会場に足を運んで、自分の作品に対面し、書の本質にせまって欲しい。

上位入賞10名ほど、上面(つら)だけでなく、本ものの筆法を身につけたら、やがて、いわき市美展「書」の部も、第二の黄金時代を迎えることが出来ると思われる。

有名な王鐸も、一日創作、自己の俗体におちいるのをおそれ、翌日は臨書したという。

その昔、安藤榻石先生が、口ぐせの様に言った言葉がある。「下手(へた)さ加減はまだ救われるが、俗はいやす術(すべ)がない」と。

更に古典にたち向かい、本ものの自分をみつめ直して欲しい。

2006年3月8日

審査員長　村　上　皓　南

第35回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	周立詩	鈴木花泉	鹿島町米田
いわき市議会議長賞	接瑞雲	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
いわき市教育委員会教育長賞	雪深き岩の	小松遊苑	西白河郡西郷村大字真船
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	師拓詩	谷津淑夫	内郷宮町
いわき市文化協会会長賞	呉昌碩詩	猪狩桂舟	四倉町
福島県報徳社賞	白楽天詩	髙野晶	小島町
〃	七言句	新妻淡遠	常磐湯本町
美術館友の会賞	酔吟二首	小林千恵	四倉町上仁井田
有限会社トーカイ賞	臨陳淳	菜花琴雪	四倉町
魁文堂賞	蘇東坡詩	大平峰生	佐糠町
〃	葛起耕句	大河原一酔	内郷綴町
有限会社平電子印刷所賞	朱徳潤詩	伊藤抱琴	平下神谷
遠藤一心堂賞	張茂先励志詩之一節	樋田静流	東田町
〃	杜甫詩	服部桂山	好間町中好間
関根一心堂賞	臨銀雀山漢墓竹簡	臺椒花	遠野町滝
丸中表具店賞	欧陽修詩	佐藤心耕	江名
勝山堂賞	臨造像記	新妻祥雲	平中平窪
大宝通商株式会社賞	ひろはまかずとしさんの詩	大山嶽鳳	泉ケ丘
株式会社アメミヤ東北賞	春のうた	井戸川保子	郷ケ丘
ホープ商事株式会社賞	李頎詩	岡部香葉	渡辺町泉田
(有)磐植賞	呉襄詩	物江虹唐	桜ヶ丘
いわき書道協会賞	李白詩	馬上里風	常磐関船町
〃	李白詩	鈴木悠里	小名浜
〃	七言律詩	石川絹晃	内郷白水町
〃	王安石詩	小林昭夫	常磐上湯長谷町
新人賞	臨何紹基	渡邊恵梨子	郷ケ丘

※新　人　賞
30歳以下の若手作家を対象とし、受賞は3回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※釈文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

審査雑感

昭和50年、いわき市美展の第５回展は、開館間もないいわき市文化センターで催されましたが、この年は新たに『書の部』が設けられました。よって実質的には、今年で32回を迎えたわけです。

５回展以後、出品された招待・公募の方々が大勢物故されており、本展の発展に尽力下さった人達だけに寂寥の感を深くします。

本題の内容ですが、昭和50年代頃と比べて、書体は勿論のこと、多種多様な書法が認められます。いわゆるいい意味の変相です。平成の今に生きるという見地から、拘束されない自由な制作は、大いに歓迎すべきと思います。

確かに、洗錬されたうまい作品が見受けられ、質の向上が計られています。規矩に則って、そつなくまとめあげて、無難な作が多いです。それはそれとして結構なのですが、一面淋しい気もします。

もっと体当たり的な所作で、冒険が欲しいのです。この観点から、上位三賞を受賞した大河原、小松、鈴木の三氏の作には、その傾向が窺え好ましいです。

閑話休題。一朝一夕には、書は上達しません。よしんば上達しても、究極の到達点というものはありません。そこに書の深遠さがあるのです。

理屈ぬきに、筆を持って紙に立ち向かう姿勢が大切です。いつも初心を忘れず、地道に一歩一歩踏みしめて、せかず、騒がず、こつこつと精進してゆくこと、それが書の行程と心すべきでしょう。

2007年２月14日

審査員長　佐々木　折　柴

第36回　書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	竜虎情	大河原一酔	内郷綴町
いわき市議会議長賞	さむしろの	小松遊苑	西白河郡西郷村真船
いわき市教育委員会教育長賞	徐暉詩	鈴木花泉	鹿島町米田
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	周述詩	高野晶	小島町
いわき市文化協会会長賞	潘高詩	物江虹唐	桜ヶ丘
福島県報徳社賞	蘇軾詩	大平峰生	佐糠町
〃	王鐸詩	岡部香葉	渡辺町泉田
美術館友の会賞	花影乱	筥崎雪虹	鹿島町上蔵持
有限会社トーカイ賞	河上立春	谷津淑夫	内郷宮町
魁文堂賞	左千夫のうた	井戸川保子	郷ヶ丘
〃	劉鉉詩	服部桂山	好間町中好間
有限会社平電子印刷所賞	臨陳淳	菜花琴雪	四倉町
遠藤一心堂賞	傅山詩	渡部英華	好間町川中子
〃	七言句	新妻淡遠	常磐湯本町
関根一心堂賞	赤とんぼ	大山嶽鳳	泉ヶ丘
マルナカ表具店賞	挽歌	村越紫苑	平
勝山堂賞	王恭詩	佐藤心耕	江名
㈲坂本紙店賞	李商隠詩	関根精香	中之作
株式会社アメミヤ東北賞	臨馬王堆	伊藤松茄	平赤井
ホープ商事株式会社賞	山家集のうたを	坂本一道	平上荒川
㈲磐植賞	王士禎詩	渡部紫葉	勿来町
いわき書道協会賞	賀鋳詩	吉村翠苑	平
〃	閨怨詩三首	小林千恵	四倉町上仁井田
〃	臨楊沂孫	樋田静流	東田町
〃	夕されば小倉の山に	髙橋楊舟	郷ヶ丘
〃	悠遠長懐	和田純孝	平上片寄
〃	臨崔敬邑墓誌銘	金賀草人	小名浜岡小名
〃	岑参詩	馬上里風	常磐関船町
新人賞	臨何紹基	手塚恵梨子	郷ケ丘

※新人賞
30歳以下の若手作家を対象とし、受賞は３回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。